

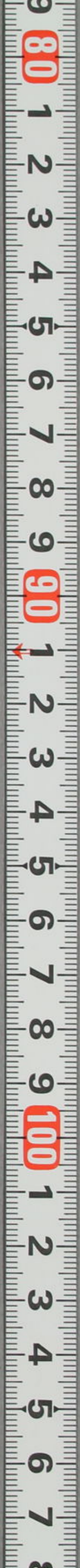
釋迦御代記圖會

第五卷

五



~ 13
4039
5



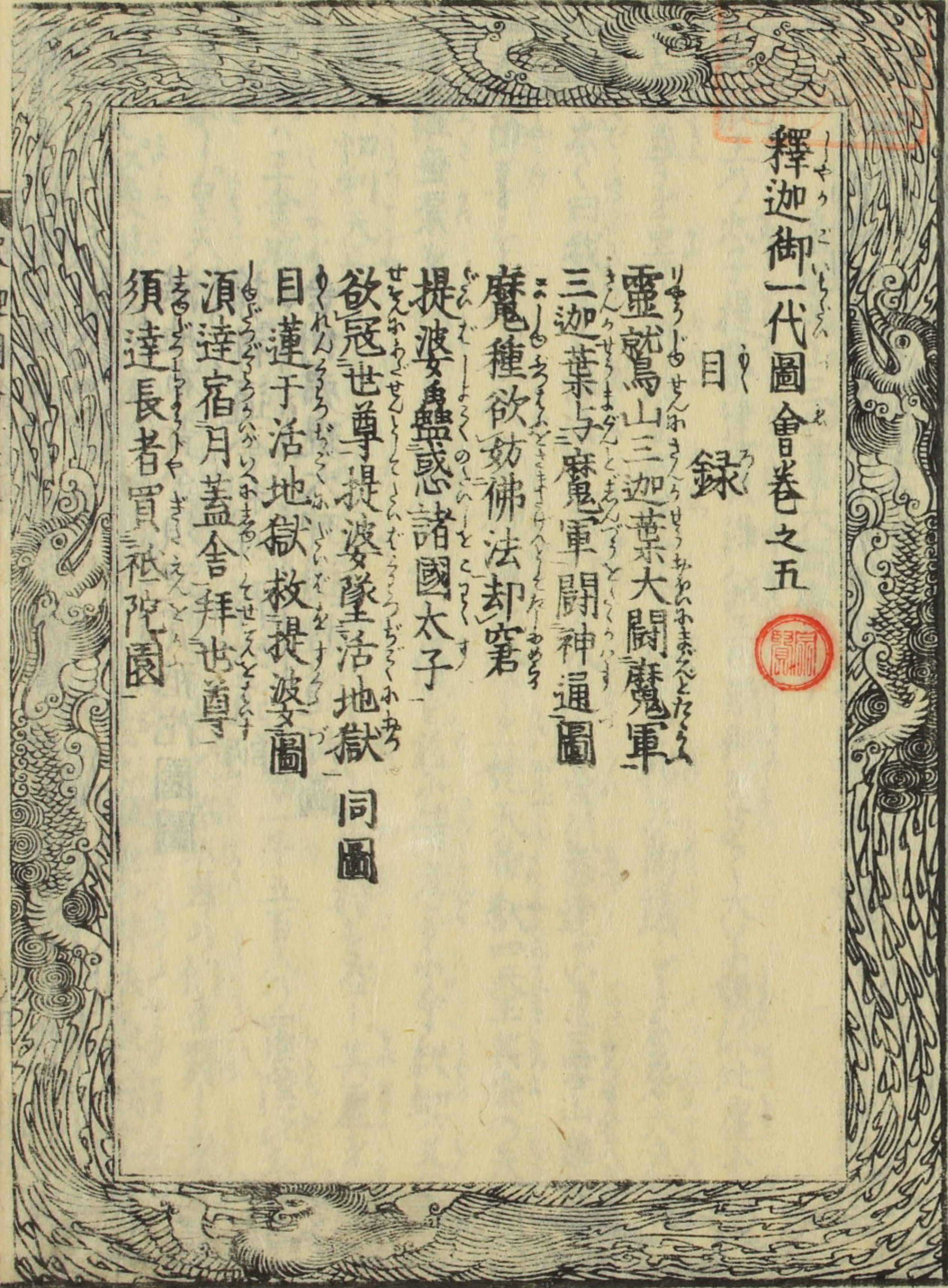
81
2804

釋迦

釋迦御一代圖會卷之五

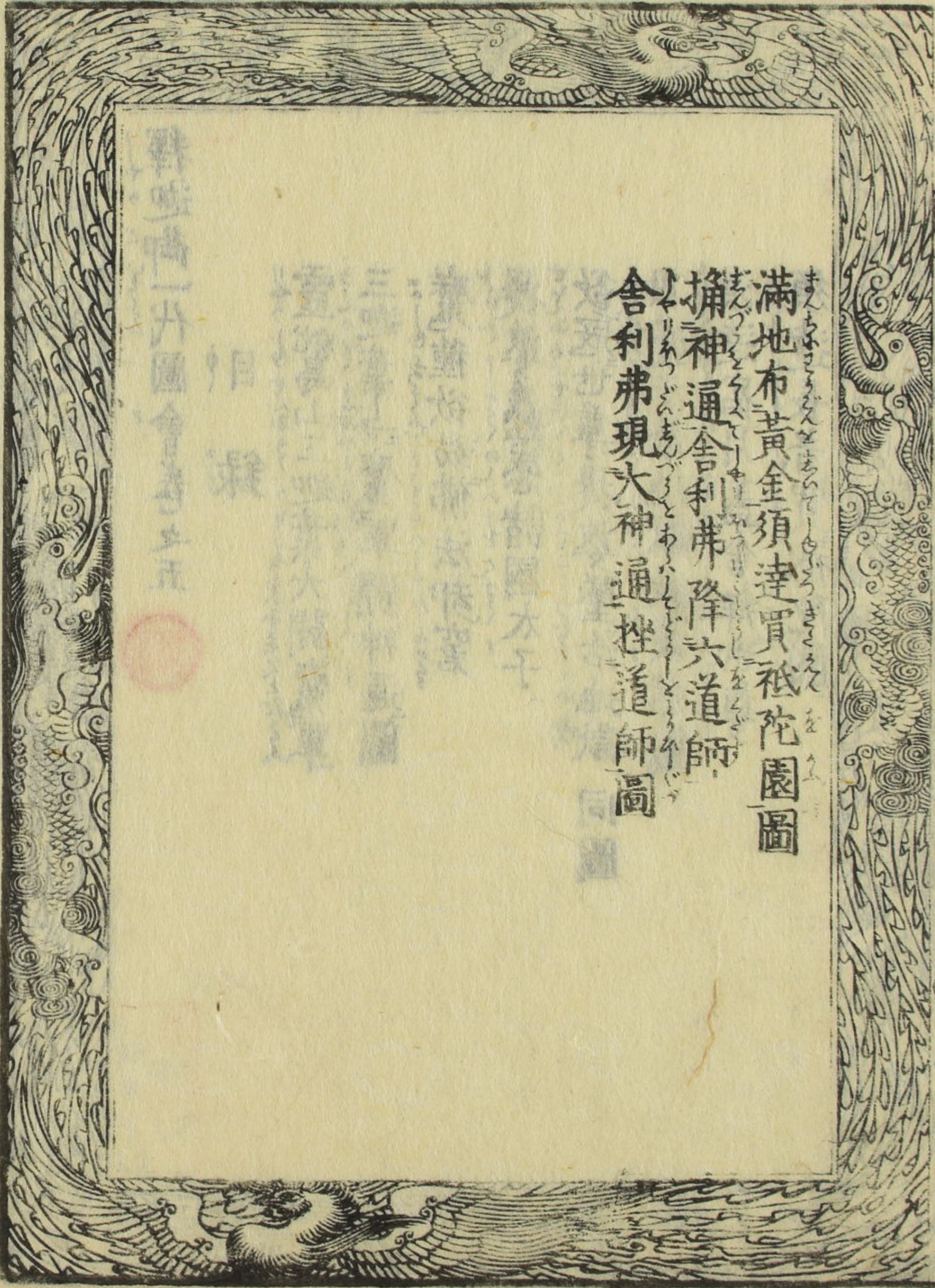
目録

靈鷲山三迦葉大闍魔軍
 三迦葉与魔軍闘神通圖
 魔種欲妨佛法却寤
 提婆曼惑諸國太子
 欲冠世尊提婆墜活地獄
 目蓮于活地獄救提婆圖
 須達宿月蓋舍拜世尊
 須達長者買祇陀園



昭和42年12月12日
 和田大作氏贈

滿地布黃金須達買祇陀園圖
捕神通舍利弗降六道師
舍利弗現大神通挫道師圖



釋迦御一代圖會卷之五

靈鷲山三如葉大國魔軍

浪華好谷堂野亭考選

斛飯王乃太子提婆達妻八淨飯王の前御を以て大に悦び此虚小棄
て親尊を害す。佛法を破滅せん。亡軍を招き高議とる。弟六天の大王
進出く曰我曾く佛法の世小行はし入妻を憂ひ悉達がいよ雪山難行の河
より障界を以てし。彼六神通を得。梵天帝釈四天王其餘の天將諸
佛薩垂深を扶助す。一度の利を得。茲小借考る。今釈迦父の喪小
依く忉利天正寺小在。緒天將も彼所小在。獲持を以て其虚を謀りて
我門八王舎城の靈鷲山小押寄。釈迦乃後弟一千五百人の羅漢比丘と
慶登小。皇天親を捨主を棄て出家とる。不忠不孝の們を罰し。流
云。以後佛道を飯依とる者。自然と釈迦の佛法裏へ我か大道亦
熾小。不知這謀計ハ奈何と云。提婆達妻手を拍く大に悦び

是枝を剪て幹を死の妙計なり。急に靈鷲山小赴丸羅漢を遣り殺
 せよと。自己八部の魔軍億萬數を領し。雲を踏て王舎城の西靈鷲山へ
 を赴れたる。此の西靈鷲山者。閻崖末三加葉大衆を領し。富田那者。世尊
 小代りて。鏡法に聽衆小無常。乃迅速なるを鏡綸に在る。倉車小惡
 風吹来て。満山の樹木を動揺せしむ。數萬の聽衆。是に如何なる天變
 小やと發したる。法活を歩捨八方へ離散。已に隨意逃回す。一千五百の僧
 徒も。惘果る。遙か天をぬりしけり。唯視一朵の黑雲。叢末り。霹靂の
 音山河を震動させ。雲中。小奇姪の惡鬼。充滿せり。或は三面六臂。或は頭三目
 或は短身長脚。或は四手八足。其他鱗角劍の如く。かゝるあれ。毛髮針の如く
 かくるあり。種々の惡相。故拳と。小違ある。各牙を鳴し。眼を瞋し。兵
 杖。苦械を執り。群り降り降る。多怖る。乃人をも踏かり。大衆戰慄し。今や渠
 者も。不覺に喰し入る。活心地なる。然るも。大阿加葉兄弟三人ハ

是を聞き。早く提婆が障身見ると。我知る。此の怖まを。瑠璃の高座小
 上り。十絶の靈幡を。多鐘を鳴し。磬を叩き。威を示し。提婆達多。左右
 小對渠。何者ぞ。向魔種。乃中。小織者有。曰。渠ハ。大獨園。乃優樓頻
 螺耶提伽。爾。乃三人の兄弟。悉く。名を加葉と。呼者。其先仙法を。學ぶ
 大。小華。乃後。釈迦。徒弟となり。佛法小解。を。中央なる。ハ。即。凡。優樓頻螺
 小。乃。大加葉と。呼れ。釈迦。乃。十大弟子。乃。隨。一。乃。以。と。答。小。提婆達多。嘲。し。以
 老年。乃。比丘。何。程。乃。更。を。多。一。得。人。只。一。箭。小。射。殺。と。令。多。小。大。軍。領。掌
 一。乃。小。毒。箭。を。放。し。雨。乃。如。三。加。葉。猶。一。寸。動。ま。ど。三人。ひ。ひ。右。乃。手
 を。用。心。三。輪。乃。大。蓮。華。と。なり。大。衆。を。覆。く。箭。を。遮。り。小。大。軍。の。箭。前。悉
 く。飛。回。り。却。く。魔。陣。を。射。る。是。小。依。て。大。族。大。小。狼。狽。隊。を。乱。して。綱。と
 退。二。陣。乃。大。軍。入。り。乃。猛。火。を。降。し。惡。風。を。吹。し。攻。至。る。大。阿。加。葉。持。し。多
 如。意。を。揮。り。是。を。拂。む。猛。火。一。亦。小。消。惡。風。却。く。大。兵。を。吹。仆。し。三。陣。ハ。

魔頭驚歎。加葉の神通亦悔。進む向の雷乃如。如を護して曰。魔
 什伎加葉。多年仙法を學び。大の事な。何ぞ連年の功勞を捨。釈迦を安。格
 小惑。心ん。寂滅の道不入。や。早く無益の佛法を捨。仙法。不。不老不死。乃
 道を其。人。せ。猶。悟。ぞ。我。が。道。を。妨。け。な。む。身。軀。髮。膚。を。微。塵。小。碎。た。捨。ん
 と。罵。り。たり。加。葉。天。を。仰。ぎ。呵。々。と。言。ひ。何。汝。淺。魔。無。道。の。提。婆。小。暴。れ。れ。り
 我。佛。如。來。の。妙。法。を。妨。ん。と。も。れ。ど。世。尊。の。大。威。神。力。小。焉。ぞ。及。ぶ。た。ん。早。く。ナ
 心。を。翻。く。三。室。小。飯。依。如。來。の。教。化。を。受。よ。と。曰。王。此。語。を。受。く。大。の。怒。り
 萬。眷。屬。小。指。揮。く。関。を。幾。兵。又。を。雨。く。攻。進。む。三。加。葉。い。く。身。を。動。せ
 三。個。の。金。剛。神。と。化。け。各。三。叉。の。戟。を。廻。く。空。中。を。飛。行。し。六。軍。を。拂。小。唯
 秋。風。の。木。葉。を。散。と。如。く。悉。く。雲。中。へ。逃。隱。る。大。王。大。の。憤。り。巨。口。を。開。く。火
 焰。を。吐。き。鐵。杵。を。奉。く。唯。一。擊。小。せ。ん。と。飛。來。る。大。河。加。葉。本。根。を。頭。一。指。を
 揮。む。火。焰。忽。ち。五。彩。の。花。と。變。じ。散。持。く。致。許。弱。轉。く。小。蓮。華。と。成

多し。前。の。廣。言。小。似。ど。慌。張。で。逃。回。ぬ。弟。四。陣。の。魔。首。入。り。り。て。黑。雲。を。起
 一。百。千。の。雷。神。を。車。く。電。光。を。閃。く。攻。進。む。三。加。葉。一。粉。小。手。を。以。く。虛。空。に
 麾。を。旋。風。吹。幾。く。黑。雲。を。散。く。水。雨。降。去。な。く。雷。火。を。消。小。と。是。も。可。く。手
 逃。退。く。弟。五。陣。の。大。頭。思。惟。一。普。通。乃。業。お。て。勝。が。く。く。自。己。身。を。躍。し
 百。尋。の。惡。龍。と。化。し。天。小。飛。揚。し。て。爪。牙。を。鳴。り。大。穴。乃。如。口。以。開。九。焰。乃。舌
 を。閃。く。三。加。葉。を。俵。吞。せ。ん。と。下。り。來。る。大。河。加。葉。口。を。身。を。動。せ。と。忽。ち。大。鵬
 と。化。し。兩。翼。天。を。覆。ひ。船。を。合。せ。如。蛇。嘴。を。鳴。り。惡。龍。乃。目。暗。を。啄。ん。と。手
 大。王。大。の。小。怕。を。化。身。を。収。く。逃。回。る。是。を。足。く。弟。六。陣。乃。大。將。萬。眷。屬。を。領。し
 進。む。至。る。小。大。河。加。葉。如。意。を。以。く。虛。空。小。描。を。唯。見。六。軍。乃。上。小。大。石。出。現
 一。藕。絲。を。以。く。鉤。り。其。河。二。人。乃。加。葉。如。意。を。以。く。空。小。描。を。忽。然。と。て。二。足
 乃。氣。と。かり。大。磐。石。を。釣。く。絲。を。牽。ひ。韃。畜。く。六。軍。の。上。大。石。を。墜。入。ん。と。と
 六。軍。發。死。慌。て。逃。退。く。弟。七。陣。乃。大。頭。展。眷。族。と。俱。小。煙。霧。密。雲。と。成



三加葉上人
大正神通
関の図



新加坡金剛寺

天を覆む。俄然として世畏大黒闇となり。自他を見ざる。更無くして三加葉より
三箇乃日輪と化して天小昇る。ふと煙霧密雲とよの亡軍となり。世畏明朗の
る。以前小勝り。暑こと焼が如く。われ亡軍首なり。敗退し。第八陣の
王突出。身を動さず。忽ち一大神と化し。身材七十五丈。西足
二坐乃山乃頂を踏み。跋扈し。瞑まる。眼ハ淨破璃乃鏡を。けり。掛る。と
鼻ハ峻峻なる山と疑れ。血池ハ一般なる口耳根。裂牙とさか。利劍
を植かり。如く生出。吐息虹小彷彿たり。大加葉公。怖む。身
動。增長天と化し。身材百丈七室。乃大冠を頂。明々なる山光を。肩十
二種乃無量相を具し。方天戟を。回して大神と戦。一千余合。亡王遂小敗色
を。顕く。逃退く。如斯亡軍術を換。攻れ。三加葉方便を。変。破り
一七日。間。挑。闘。佛徒乃神通勝。提婆。遂。不。氣。を。辱。亡軍。率
く。自。國。を。引。退。たる。後。小。於。一。千。五。百。の。大。衆。三。加。葉。乃。神。通。廣。大。方。と。て

續歎世のハカリ

盡種欲妨佛法却害

却統釈迦年。居世。ハ。切。利。天。正。寺。在。又。君。淨。飯。王。即。追。編。乃。為。且。諸。卿
官。族。乃。為。小。諸。善。万。行。乃。切。德。附。屬。の。統。法。を。辱。ハ。憍。曇。弥。好。容。美。容
乃。三。夫。人。處。野。瞿。陀。弥。乃。二。新。宮。感。慨。乃。余。リ。如。果。願。以。瑠。璃。乃。髻。を。辱。ハ。入
戒。乃。女。僧。乃。乃。乃。三。千。乃。後。宮。妹。乃。日。阿。小。刺。髮。漆。衣。の。姿。乃。乃。乃。然
も。善。惡。公。車。乃。兩。輪。の。乃。乃。乃。信。心。善。行。乃。乃。乃。事。易。リ。斛。飯。王。乃。子。提。婆。達
乃。乃。乃。山。乃。乃。乃。小。乃。加。葉。乃。乃。乃。性。乃。乃。乃。無。念。骨。髓。乃。乃。乃。徹。乃。乃。乃。佛。法。乃。乃。乃。冠。せ。ん
と。魔。王。外。道。を。集。く。佛。法。破。滅。乃。謀。を。謀。む。小。故。畏。乃。魔。王。乃。白。身。乃。乃。乃。毀
度。釈。迦。乃。法。を。妨。か。し。乃。乃。乃。神。通。を。弄。以。眷。屬。を。辱。し。乃。乃。乃。還。小。釈。迦。を。害。せ
ん。乃。乃。乃。謀。乃。乃。乃。渠。已。を。慎。信。心。堅。固。乃。乃。乃。一。念。を。乃。乃。乃。故。小。每。度。勝。事。不。能
茲。を。以。て。我。熟。思。惟。乃。乃。乃。何。半。方。便。を。以。て。渠。乃。乃。乃。心。を。矯。ら。せ。其。慢。心。乃。生。じ。る

天正御記

虚小乘一々害世。其の釈迦よりとも憐れ人更難くも提婆が曰此論甚ふ
 卓し。よりかゝる其方便ハ奈何と問。在が曰。今釈迦ハ天正寺小在。其法は我
 五百人の眷属を剃髮染衣の法を。羅漢の鉢小紛装せ。大衆小まど
 亦一千の眷属を婆羅門の妾と變じさせ。釈迦が説法の聴衆小雜ら。其
 經説を讚歎し。出家の望を述べ。徒弟とせ。人更を乞ふ。彼自坐怡悦し
 驕慢の心を生じ。多入其阿小乘。釈迦を擲殺人。鼠を殺し。より安らふ。下
 と。より貞小曰。れを提婆達多。大の悦び。是究く妙計なり。五百人の大衆
 を比。其の形小變じさせ。天正寺へ赴き。千人を婆羅門小化させ。謀を教天
 正寺へ詣り。提婆達多と正と俱小隱形。法を以て。妾を隱し。法坐乃。辺小徘徊
 一專く虚をを窺ひ。多。噫。呼。愚か多。提婆唯是。聾者乃。鈴を盗ん。と
 が如く。我乃。見小迷ひ。却て世より神通眼を昧さんと。巧多を拙り。れ。諸
 教。獅子の高座小上り。因果觀面乃。理を述。比。綸を説く。説法し。此の

一妖魔佛弟と變じて。大衆の中。小紛入。或は婆羅門と成り。聽衆の中。小雜
 る。公覽し。是亦提婆が法を妨んと。練多を。と。知。口。か。さ。あ。ね。昧小
 大衆小對ひ。む。れ。佛道修行。身小。善尺魔乃。障。ん。ハ。等。周小
 て。正果を得。因。信。行。の。法。を。定。む。る。舍利。弗。同。連。迦。憍。延。們。ハ。既
 小。心得。有。る。を。れ。む。を。れ。く。の。位。を。定。む。と。穩。小。仰。ある。三。羅。漢。佛。勅。を。奉。り
 大衆を分。三。重。小。居。り。を。各。偈。示。して。曰。初。地。より。十。地。まで。公。声。聞。と。号。して。十
 新。戒。より。非。多。戒。無。任。乃。行。六。時。乃。勤。行。有。る。次。小。一。行。より。十。行。まで。十二
 因。縁。乃。修。行。を。立。縁。覺。と。号。し。百。種。の。諸。戒。を。改。め。六。時。乃。勤。行。懈。怠。なく。別
 体。無。任。ある。下。其。次。ハ。定。より。十。定。まで。禪。定。惠。智。乃。四。種。の。德。道。を。立。善
 提。と。号。し。六。波。羅。密。を。行。下。六。時。乃。勤。行。懈。怠。有。る。を。と。と。嚴。重。小。法。を。定
 多。是。小。依。り。世。を。大。衆。乃。為。小。戒。律。經。を。説。む。是。を。降。魔。の。初。なり。斯
 大。衆。ハ。法。令。の。如。く。戒。律。を。守。り。勤。行。懈。怠。なく。修。し。れ。ば。惡。心。外。道。ハ。

法律をん厳重なる緘を知らぬを面々顔を見合せ案小相違せし心地をれども
是れ大衆の心を成見すし小動行し或ハ痺を堪へ或ハ欠を忍び行ひ多
可笑れ如来ハ明白ハ外道の情態を知むハ強くえらひおつど動行の
躰然固く不改りハ聊あくも急る輩ハ信時禁文多し或ハ坐位を下坐具を
絞リ或ハ袈裟を切衣を墨ぞ緘の懲りしふ外道ハ堪へる本相を
頭ハ頭を抱へて逃去り且亦聽衆小難し悪人ハ世より鏡法を空すハ
聴く口喧しく續歎し首を振る感賞ハ人ハ如来ハ高坐乃下進より
出ぬ洞を袖小拭ハ突難有法乃功德ハ我々が多年學びハ只後生ハ王侯
貴族ハ生ハ潤計歡樂を究ハ願ハ難行苦行ハハ今如来の妙鏡
を承り初今修行道ハ解脫真正の妙法ハ及事悟りハ
仰願ハ大慈如来我々が出家得道ハ飽言を巧
く曰れ世其詐謀を知むハ然ハ体ハ曰突ハ奇特ハ志哉

先戒行をなをり。舍利弗曰連其余の阿羅漢ハ會ハ教ハ羅漢
建師命を領し外道小對ハ佛道ハ入ハ欲せハ先十戒を受ハ其
初ハ無食ハ行ハ一切ハ食物を斷一滴ハ水ハ飲ハ亦睡眠を
行ハ終始をハ許ハ如斯ハ心を煉事三七日をハ千人を別
室小居ハ二百人ハ比を以ハ是を守ハ坐を起者ハ三十杖撃上
ハ談話を者ハ五十杖撃睡眠を者ハ百杖撃ハ嚴ハ令下
ハ身外道を害ハ通ハ人ハ出家ハ何ハ都ハ斯ハ如
ハ族ハ案ハ外嚴ハ戒行を受ハ初ハ程ハ佛法破滅ハ為ハ互ハ心
を屬ハ金剛合掌ハ坐禪ハ殊勝ハ体ハ元未飽
肉食惡食ハ無頼放蕩ハ生育ハ者ハ暫時ハ心ハ脚
痺刺ハ飢渴ハ臨ハ堪ハ欠伸ハ杖ハ取ハ面を忘ハ亦坐禪
ハ脚ハ腕痺ハ我を忘ハ互ハ策取ハ或ハ互ハ脚

中れて、背を収め、睡る。之を肩を収め、小を殆ど困窮。堪へず、一入を御出せ、我
少くとも本相を頭。雲小攀り、信々魔界、巡回リ、可笑小。見苦く、乃
守乃僧ハ是を及く、大少、孩死世、小、獨り、有、熊末を言上、如來笑よ、せ
玉ハ、疾より、渠們、障、尋、せん、ま、知、も、伴、と、ま、ま、ひ、り、ま、素、リ、ナ
佛一如、れ、渠們、を、中、後、遂、子、善、果、を、得、せ、り、ん、と、宣、ふ、と、大、衆、們、佛、智
乃、廣、大、なる、と、大、慈、悲、心、を、感、歎、念、信、心、を、疑、さ、る

提婆達多惡感緒國太子

惡戸外道ハ世々乃嚴戒、小、愧、果、提、婆、多、許、巡回、息、み、あ、と、一、五、十、と
結リ、れ、提、婆、多、今、十、針、盡、此、上、と、如何、せ、ん、と、沈、吟、さ、る、亦、一、箇、乃、大
惡念を生じ、種、子、結、て、曰、我、法、性、妙、顯、仙、乃、幻、術、を、盡、傳、授、れ、を、釈、迦
か、つ、つ、海、度、せ、る、國、々、を、我、先、往、迴、り、幻、術、を、以、て、諸、人、の、心、を、昧、す、外
道、を、勧、め、釋、迦、の、教、を、疎、せ、佛、法、を、妨、ぐ、如何、一、向、六、王、們、手、を、収、め

こ、這、練、針、大、小、妙、なり、疾、々、思、ひ、ま、ま、と、勸、め、よ、り、提、婆、多、飲、め、と、悦、び、素
リ、仙、家、の、幻、術、を、學、び、究、め、れ、を、老、者、と、なり、女、年、と、なり、霧、を、殺、し、風、を、呼、
等、の、神、變、自、在、を、弄、本、國、を、啓、行、阿、支、羅、兜、國、に、到、り、國、王、頻、婆、女、婆、王、の
太子、阿、闍、世、太、子、を、昏、迷、せ、ん、と、白、髮、の、老、翁、と、變、じ、太、子、乃、宮、中、に、到、り、見
る、石、を、握、り、玉、と、り、尾、を、碎、り、黃、金、と、ま、る、か、ん、と、神、變、不、思、議、の、術、と、行
ひ、ん、れ、阿、闍、世、太、子、大、小、提、婆、多、を、信、し、宮、中、に、傳、り、重、く、饗、應、せ、り、
其、術、を、學、ぶ、れ、又、頻、婆、女、婆、王、に、是、れ、と、姪、り、幻、術、を、今、釈、迦、牟、尼
佛、世、に、出、玉、其、道、を、信、じ、も、者、と、將、來、の、福、を、得、る、と、中、に、不、如、邪、道、と、捨
る、三、宝、を、信、せ、ん、と、練、師、太、子、此、妻、を、提、婆、多、告、る、小、提、婆、多、曰、此、佛、法
ハ、親、を、捨、主、を、捨、妻、子、春、族、を、捨、り、寂、滅、を、樂、み、子、孫、を、斷、絶、せ、り、い、子
道、を、り、邪、道、是、より、甚、く、れ、を、り、我、道、ハ、石、を、玉、と、り、瓦、を、金、と、ま、る、の、妙
道、小、國、を、富、し、子、孫、の、榮、を、嘗、む、法、を、り、豈、佛、法、と、雲、壤、乃、違、の、と、ん、ん

や太子又王の妄言を信じて妻を殺せり。不明の又王の國を治りしむる國財
遂小僧徒の供養を費す。衰滅の基と爲るなり。早く又王を牢獄に下し御身
王位に即國中佛法を信じて者あるを盡く刑罰を行はせしむるを勧めり。又
太子提婆が爲小惑され疾より心魂を味されしを今這大惡言をして至極
乃格言かりし。情なく又王を廢して七重の牢に入たり。右宮章提希夫人
是をんむひて太子を百般に練ふを提婆も太子を練ふ
夫人を牢獄に下させ其餘臣下の中練言する者悉く市に賣り刑罰
しを果は維有る風練する者中潜小扇を擧て世を危ぶむなり。阿闍
世太子は是を好まむ。昼夜淫酒耽耽り國政を荒く下民を虐くふより國
中大の義あり。提婆は仕をまじたりと悦び阿闍世王に辭して阿支羅兜國
を去り矩奢那國へ到り國王頭明王の皇子龍種太子を惑へしむる邪法を
勧め佛道を忌む奢移を究りしむ。頭明王を徒陀河とく大阿を渡り

遠嶋へ流させしより憍陀羅國へ入り。魔仙太子を盡惑して又阿迦賊王
を絶し魔柄山とく深山の溪へ捨せしむ。其他諸道を回り人心を惑へし
君臣の心を裂き又子の因を断夫婦を離別し其朋友の交り隔るんし
所有惡業を勧め五逆罪を造る者救奉する小違あむ其統と
ころ釈迦國家の仇敵佛法に亡國の源を起し早く釈迦を誅し僧尼
を殺し又害を除盡しと毒舌を鳴らし流言したり。実小論を説き
極惡人たりたり。釈尊は天眼通天耳通を以て提婆が惡業を知覺し
心中に思念しむ。予因位の昔衆生の願ひを充んぬ。或時大通智
勝佛と現じ二十五種の誓言を起し四魔の心を扣け或時淨光佛と成
て五十一事の誓言を發し衆生の無明を照し是れ其の心を鎮めしむ
其他万燈佛燃燈佛燈明光佛十二光佛盧舍那佛最勝佛七現五智
三十六尊廣河薩化應と令身し。不斷說法の功德を充仙迦人妙と

大の怒り。朕國の四方不開門を建固く佛徒を制抹さす。何國より
 来りて朕自己神喪力を乞ふ。渠師弟を廢棄し、其の根を断んと。我
 を身小被懸。兵刃を執り、軍を領し、白象小踏り、城外、押出し、前面を
 足んを執尊。大衆小圍繞せし。御身、石上小端坐し、其白毫の光赫々
 大陽小向か。如眼々々々定ふ。見る隻能つを乗る。白象、足を縮め、首と
 低く進み得む。隨從せし軍卒、地小跪て、礼拜せし。阿闍世王、氣と
 厲し、是の後、杖と鞭を揚り、象を撃とも。すも動を得られ、心焦燥て、飛
 下り、長鎗を執り、向近く世をの法、鉢小迫り、声叫ん、刺んと。忽ち
 鎗ハ鈎針の如く、曲り、五脉、瘡を働死得む。さうら、鐵の繩、縛られ、さう
 力を呆了。忙然たり。世を微々、小の善来太子。切如、是大怒。師諸惡
 莫作。衆善奉行。共益横難と唱む。阿闍世王、忽然、其の覺り、覺るが
 如く、惡心却り、善心となり。覺む。善械を投捨し、恭敬礼拜し、合掌して、南无

佛と唱る。小を數萬の軍士、小南无佛と唱へ、世を阿闍世王、小向ひ
 你提婆を障導。小依り、五逆罪を造ると。心小出り、科小あ、ふれ、懺
 悔の爲、其罪消滅せり。急死、父母を獄中より出、不孝の重罪を謝す。
 一と命、名を阿闍世王、深く慚愧し、朕、妖賊小、瞞れ、骨肉、大息、乃、父母を獄小
 下り、さうら、如何、さうら、心小、有、久と號、後、先世、師弟を城中、小結、て、供
 兼、即、阿小、牢獄を破却し、乃、父母夫人を出、頭を破り、血を出、罪と
 謝す。頻婆娑王、章陀、夷希、夫人、太子の本心、小還、し、を深く悦び、玉、以、是、偏
 小、如来、乃、大慈、大悲、小、依り、さうら、世を、小拜、緇、あり、尊く、法息を謝し、種々の施物
 を献り、さうら、茲、小、於、世を、國王、父子、乃、爲、父母、報恩、經、を、説、二世、因果、觀、回、り
 理を示し、玉、を、頻婆娑、女王、乃、夫人、太子、緒、臣、下、さうら、感、涙、を、と、め、り、の、涙、
 三室、小、飯、依、し、髻、を、剃、く、佛、弟、と、なる、者、二百、余人、受、戒、さうら、者、數、さうら、世
 言、も、歡、喜、し、玉、の、國王、小、辭、さうら、阿、支、羅、兜、國、を、五、矩、奢、耶、國、と、赴、む、さうら

欲冠世尊提婆墜落地獄

斯^く世^せの^ん矩^こ奢^{しゃ}者^{しや}耶^や國^{こく}小^こ至^しり^まひ^はく^は方便^{へんぱん}を^を以^もて^て龍^{りゆう}種^{しゆ}太子^{たいし}を^を善^{ぜん}心^{しん}小^こ飯^{はん}せ^しり^まく^は頭^{あたま}明^{あきら}王^{わう}を^を遠^{とほ}嶋^{しま}より^{より}迎^{むか}へ^りて^て六^む河^が般^{ぱん}若^{じやく}經^{きやう}を^を鏡^{かがみ}に^に諸^{しよ}人^{にん}を^を教^{しゆ}化^けし^りま^ひ夫^{おつ}より^{より}瑯^{らう}舍^{しゃ}國^{こく}小^こ至^しり^まく^は鹿^{ろく}仙^{せん}太子^{たいし}を^を鏡^{かがみ}に^に梅^{ばい}陀^た羅^ら王^{わう}を^を深^{ふか}谷^{たに}の^の下^{した}より^{より}扶^{たす}出^ださ^せ其^{その}余^{あま}提^{てい}婆^ぱ女^{にょ}が^が惑^{まど}乱^{らん}せ^し國^{こく}々^々を^を周^{しゆ}行^{ぎやう}し^て悉^{しつ}く^く惑^{まど}ひ^を解^とく^は教^{しゆ}導^{どう}す^はま^ひを^を其^{その}國^{こく}々^々の^の國^{こく}王^{わう}人^{にん}々^々に^に佛^{ぶつ}思^しの^の廣^{ひろ}大^{だい}なる^をを^をさ^さる^る二^に室^{むろ}小^こ心^{しん}を^を傾^{かた}け^しる^はな^なり^りたり^り然^{しか}る^は小^こ提^{てい}婆^ぱ女^{にょ}健^{けん}君^{きん}ハ^ハ此^{こゝ}吏^しを^を皮^{かわ}く^大小^こ憤^{ふん}り^し此^{こゝ}上^{かみ}ハ^ハ我^{われ}秋^{あき}伽^か小^こ迦^か付^つ一^{いつ}刺^さ小^こ切^き害^{がい}せ^しん^劍を^を懷^かふ^隠し^て女^{にょ}年^{ねん}と^と衰^{おとろ}へ^其頃^{とき}世^よの^の麻^あ羊^{やう}錫^{しやく}國^{こく}善^{ぜん}勝^{しやう}道^{だう}場^{じやう}小^こ在^あり^鏡法^{ぽう}ハ^ハま^ひを^を雲^{うん}と^と跨^{また}り^利那^にが^が回^{まわ}り^道場^{じやう}到^{いた}り^聽衆^{しゆじゆ}小^こ雜^{ざつ}り^て世^よの^の小^こ思^し入^にり^鏡法^{ぽう}由^{よし}終^{はつ}り^聽衆^{しゆじゆ}の^の退^{たい}散^{さん}し^るを^を待^{まち}忽^{たち}ち^本相^{さう}を^を頭^{あたま}に^に會^あひ^劍を^を抜^ひき^世の^の刺^さを^をら^んと^とま^りり^る小^こ俄^が然^{ぜん}と^とく^く大^{だい}地^ち裂^{れつ}烈^{れつ}と^と火^か燃^もゆる^小大^{だい}小^こ孩^{がい}た^た急^{きやく}

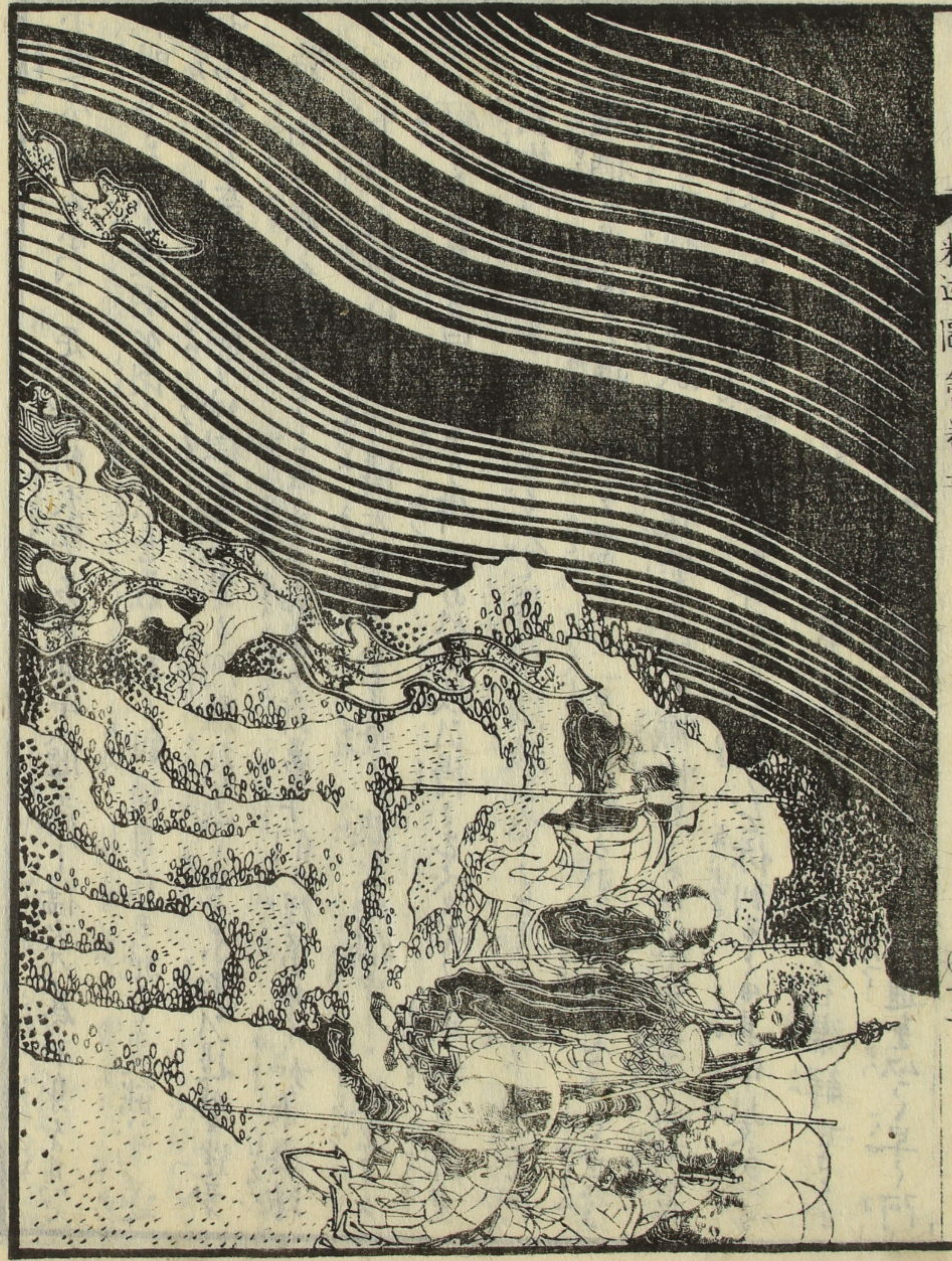
小^こ退^{たい}人^{にん}も^も口^{くち}足^{あし}の^の踏^ふ所^{じよ}火^か光^{くわう}と^となり^り其^{その}中^{ちゆう}墮^だ落^{らく}し^猛火^{まう}乃^な為^なる^小身^{しん}を^を焦^こす^れれ^れ叫^{こゑ}ん^とま^れど^煙咽^{えん}を^を閉^しぢ^声出^{こゑ}と^と茲^{こゝ}於^{こゝ}に^に神^{かみ}通^{つう}自^じ在^{ざい}由^{よし}絶^{たつ}て^吏能^{にん}が^がす^遂小^こ活^{かつ}ぶ^奈落^な小^こ陷^{けん}り^地獄^{じやく}小^こ入^いり^阿難^{なん}怨^{おん}心^{しん}今^{いま}世^よの^の小^こ對^{たい}し^提婆^ぱ女^{にょ}達^{だつ}妻^{さい}が^が造^{つく}る^所の^の罪^{つみ}無^む量^{りやう}なり^と魚^{いさな}正^{ただ}しく^如來^に及^{およ}び^弟子^し們^らが^が後^{あと}弟^{てい}なり^如來^に無^む縁^{えん}の^の衆^{しゆ}生^{じやう}成^{じやう}ぶ^救ひ^まへ^り可^あ憐^{れん}大^{だい}慈^じ悲^ひ心^{しん}を^を垂^たれ^彼を^を地^ち獄^{じやく}中^{ちゆう}に^に救^す出^だす^らむ^と願^{ねが}は^るる^小世^よの^の曰^{いは}漂^ひ素^そり^佛因^{いん}あ^れを^を救^すひ^得ま^すべ^くれ^も罪^{つみ}科^かさ^深重^{じゆう}なり^我許^{こゝ}乃^な呵^あ責^{さつ}を^を受^うめ^ると^とん^罪障^{ざう}消^{しょう}滅^{めつ}さ^ると^とく^肯玉^{こん}を^を阿^あ難^{なん}可^か難^{なん}猶^{なほ}も^も提^{てい}婆^ぱ女^{にょ}を^を憐^{れん}み^救を^を需^いる^と二^に日^{にち}小^こ及^{およ}び^多る^小目^{もく}連^{れん}人^{にん}の^の世^よの^の小^こ向^{むか}ひ^弟子^し願^{ねが}は^るる^地獄^{じやく}へ^へ赴^まり^提婆^ぱ女^{にょ}を^を練^{れん}め^懺悔^げせ^りち^りり^乞せ^り曰^{いは}阿^あ鼻^び地^ち獄^{じやく}へ^へ墜^た落^{らく}さ^る同^{どう}人^{にん}向^{むか}ひ^音を^を解^とく^吏能^{にん}が^が你^{なん}到^{いた}る^と其^{その}甲^{かう}髮^ふあ^るる^也目^{もく}連^{れん}が^が曰^{いは}弟^{てい}子^し六^む十^{じゆ}四^し音^{おん}小^こ通^{つう}じ^に往^{むか}ひ^提婆^ぱ女^{にょ}小^こ結^{むす}ら^む渠^か解^{かい}せ^らむ^吏能^{にん}が^が強^{かち}く^望望^{ぼう}より^{より}世^よの^の徐^{じゆ}く^許す^也目^{もく}連^{れん}悦^{えつ}び^神通^{つう}を^を以^もて^て早^{はや}く^阿



根婆世尊之誓々々々
生かしく地獄へかゝる際

新編 金剛經卷十七

〇十三



新編 金剛經卷十七

〇十三

鼻地獄小到り。空中より提婆達多と呼ぶ牛頭馬頭空を仰ぐ。曰く者提婆
 を呼ぶ何事をうかすや。曰く同連が白提婆如来不鬼をうかす。活地獄小投せり
 阿難可難們原を憐れ救を乞ふ。止む是小依く我如来の免を得く。這所
 不來きり。你们早く提婆を將て来れ。命を獄平。曰く達多が罪深重な
 れを若干の呵責を加へ已ぶ。彩骨碎身せり。今女同待む。對面させ進せん。こ
 鐵の組り上小咬咀。たる骨肉を銅の箕へ入れ。活々と呼ぶ。よひをれ。忽
 ち提婆が形容となりぬ。されも猛烈肥大の身材古骨の如く瘦衰。顔色
 青く憔悴。くさも苦げの焰の息を吐居たり。獄平虚空を指さ。你彼尊
 者を怨や不口より。其同達多空を仰ぐ。佛弟同連淨雲小駕して立
 たり。達多洞を潜然と流る。者俯く。願く我を救ひ。曰く同連が白你悔
 妬乃心深く佛法を滅せん。且諸國の太子を惑し。五逆罪を造らせ。提
 惡念を改む。我佛如来を殺し。もく人をも。其罪障無量。力を生み。小阿

鼻地獄小投せり。今你心猶如来を恨ま。將你罪を恨や。提婆達多。三我會
 願。癡乃三毒の毒心の明鏡を曇せ。如来の妙經を信せず。因果應報。統
 致。嘲り。今活地獄の苦患。途て初く佛統の虚を。さるを知。千悔。され
 とい。返す。二度阿鼻地獄小墮落。くより。呵責を受ると無量なり。或は熱鉄の
 釜中。小投。今我身軀を煮爛。或鐵の組小咬咀。或般石の臼小搗。或
 銅板小多。絞り。其他火車。小責。乘られ。劍山。小迫。登。され。朝。小紅蓮。乃水。小
 身を裂れ。多。小魚。熱火。乃。縮。小身を焼。是。其。余。百。千。乃。昔。患。二。六。時。中。息。を。吐。の
 際。中。あ。む。と。皆。是。自。業。自。得。果。也。他。を。恨。入。す。を。唯。願。く。は。そ。者。大。慈
 悲。心。を。無。く。我。を。救。ひ。今。一。度。安。婆。へ。回。り。佛。足。を。拜。して。多。年。乃。罪。と。謝。
 け。り。を。う。か。す。血。の。洞。を。流。して。啼。哭。し。を。同。連。救。息。して。曰。你。同。淨。小。在。一。同
 八。威。萬。人。乃。上。出。助。力。よ。大。象。を。搏。ど。も。今。阿。鼻。乃。罪。人。と。なり。て。八。弱。草。と。拔
 かり。わ。く。鳥。雀。を。も。欺。る。是。你。罪。を。責。る。方。你。因。果。乃。理。を。悟。り。本

心三室の飯依をたてて我佛を救ひ得るをぞ。提婆同連の足を拜して
 曰若き者我を救ひ阿鼻の苦患を脱す。我佛を拜して誓う。佛弟とて
 水の汚をたて。永く世々不幸なるをぞ。天小向く誓言をたて。目
 連憐を獄卒に向く。曰提婆を罪重とす。如来の後弟とす。己小先罪を
 悔く佛弟たるぞ。誓今阿責を恕く。獄卒曰是我佛を預ると云
 小あらし。森羅王小錫し。告ふ。同連領く。森羅殿小到り。真
 王小錫と。冥王同連を見く。恭敬礼拜し。者何等乃更有て。駕を辱
 し。如やと。同連曰提婆達多先罪を悔く佛弟とす。人更を望む。願
 く。法王渠が罪科を許す。圖浮小回し。云。これ。真王掌案判官小命
 生死簿子を檢り。むる。斛飯王乃子提婆達多壽四十五才とあり。今提
 婆四十二才あり。猶三年乃生命有と。奏と。是小依く。冥王目連小對く。曰
 提婆が惡逆其罪重大なれ。天劫を恒る。怒と。なれ。小あらし。され。も。致

者光駕を枉く。乞ふ。不依く。渠を恕く。提婆(回)り。い。な。され。も。再び惡
 心を生じ。三室小寇と。多小於て。再度阿鼻小隊。洛。永劫浮む。期ある。う。ら
 む。言者能く教誡し。云。即阿鉄札の罪名を削捨られ。名。同連。子
 く。謝く。以前乃阿責場(回)り。提婆が身軀を揉く。俱小淨雲小兼神通と
 以く。一瞬乃うち小世。乃。在。と。善勝道場(を)回リ。世々同連が提婆と
 伴ひ。回りをんむ。如何や。達多。你因果觀面乃理を悟る。ると。同。提婆
 怕く。佛足を拜し。我邪見愚昧。如。来。乃。故。教。を。侮。り。阿鼻地獄小
 落。數箇年乃。間。無量。乃。阿責を受。初。佛。説。乃。端。的。乃。然。知。願。く。ハ
 昔日乃罪を省く。我を。法。弟。と。乃。得。脱。な。さ。め。云。と。洞。を。流。して。告
 ぐる。世々微笑し。む。你。と。乃。天。上。乃。一。日。八。人。界。乃。十。年。人。界。乃。一。日。地。獄。の
 十。年。乃。一。日。此。を。你。が。阿鼻(薩)洛。廿。回。小。總。小。三。日。な。れ。も。阿責を受。と
 三。十。年。乃。一。日。故。小。善。を。修。く。佛。果。を。得。る。我。上。知。く。惡。を。檀。小。して。墮。獄。す



佛勅
目連活地獄
提婆



る人下思とせり早く三室小飯依一出家得道せし宜ひれを提婆女感涙小
晚即坐小阿難を戒師とて僧となり各を調達と改め是より信心堅固小
持戒し未遂小阿羅漢果を得たり。解飯王此吏を傳せり大い先
非を悔自己遙々善勝道場往く罪を謝し如来を自國へ請ひ重く供養
種種乃施物を献り佛恩を報せられしを提婆太子乃新宮より妹
女臣下小いし近盡く如来戒を授けり出家せり者男女千人小及ひたり。調
達其後三年至り命終一戒行乃功力小く天の樂界へ生じたる是偏小佛道
修行の善果なり信を及りて一

須達宿月蓋舍拜世尊

茲小舍清國一人乃長者あり各を須達と叫り家富榮く北斗を支むり
小財宝を積貯へるが天性夫妻とも慈悲心憐愍深く孤獨貧窮の者を恤
財宝を散りて救ひ賑ひ善を修むるを樂しむ故小國人舉り其徳と稱

一号と給孤獨長者と叫り此須達長者小七男子あり已小六人々が家財と
多し備身の致をり多し弟七乃男子、殊小端正美質なりと智才まさ
衆小勝れを多し長者夫婦はたて電愛し天晴此者乃為小天下小雙を
容顔美麗小く志も才藝小秀る婦を娶ふと普く國中を尋求しつゝ
いよいよ是を我が子の妻小を乞ふとあり女もふり多し食客乃婆羅門
乃ら廣才乃者小命ト你緒園を周徃我が末子の婦小具なれ才色兼と
かふる女を擇来りいと托しれを婆羅門領堂一修行者となりて緒園を
廻り往き王舍城小到り多し這國小一個乃長者あり各を月蓋と叫り是
由家富豪なる吏須達小方む曾く善勝道場小結し世々の説法を聽
す。深く三室小飯依一僧尼及び修行者小専ら小錢を絶しり。是る所須達
が婆女羅門月蓋長者が門前小至り鉢を呼王舍城乃國法小人物を絶し
小八婦女を以てするがひかれ入乃女也善小小錢を盛く携へ出り修行者

小と婆羅門此女女を以て年十三四なりて天の命を以て美兒玉を欺て華を
 羞むる國色有るを大い悦び我長者の命を得て諸國を廻り我許の女と
 見ればもいまだ斯程の佳人を見ず渠を長者の未子の婦を取ると愧へり
 思ひ女女小礼を以て絶思を解し你の主翁の子なりや亦侍女なりやと
 向女女曰主翁主翁の兒なり何故向ふ波羅門曰我你の相を以て大福
 徳人小嫁と表あり然れも其期を過る可く福分減り大貧窮乃者小嫁
 且命短し我甚し是を惜り你が父家小在る我面會し其期を教示す
 及しと女女雅心小誠と有り裡小入り及月蓋長者小斯と告を以て子をおま
 親心福愛とて禍とかなるを以て約小違ひ僕を以て修行者を迎へて婆羅
 門迎の者小後長者殿小昇り先礼を厚し拜し我を長者急小礼を
 叩く上坐小結し道師先我の女兒を相し我小示を所ありと曰願くは高
 九教を示し玉と乞波羅門曰今愛実小天下小比類なり美兒を以て若是

を王者乃宮妃大臣乃妻妾なり具人とせむ短命なり唯大家と等
 く富豪小く大善根乃長者乃子小嫁とて長命無病中福徳限りあり
 くと我先月舎衛國を修行せし彼國乃大善人給孤獨長者の許小數日
 止宿し彼長者が末子を見り年記十七八歳端正美兒也智才又勇人小
 勝り我其才色具足せを愛し婦有る否やを長者小問ふと意小
 合婦ありを娶とて以て今熟なり大家乃令愛を彼頂達が末子小
 配偶せむ是天縁ゆく鸞鳳乃匹も縋つを若婚儀を結ぶ今かく我
 媒取とせしと并小任せ鏡も小月蓋素リ頂達が富豪小く大善心あり
 を傳ゆ其人小を慕心深けれ大い歡喜し我も兼て彼人乃大名と有り
 若其令息女小女兒小婿とせむを更を得む幸福何更も是小過人這國乃御
 相我の女兒を娶んとて入妻されも皆不喜人なるが故に我敢て肯んせ
 其輩我須達長者と親を結ぶを以て何かる計巧を幾く妨人小せられ

事大急不終なり多小利あり。僥倖たふさふ我高賈たか乃義不就よき。明早あけより家人
 を舍傳國しやでんこくへ到きたりんと欲せり。道師願ねがふ彼長者の我が舎屋しやゐへ駕かを枉まげり
 かり文書を造りつくりて長者小贈りちやうしやうく光駕くわがを促うながし親婚おんこんの更さらを商議しやうぎせ
 ると望むのぞむ波羅門はらもん送おくりて。微細ゐづかし書か起おこして与たまふ月蓋つきが文書ぶんしよを
 家人けいじんへ托たくす。須達すだ贈たまひ家人命けいじんを領りやうりて舎傳國しやでんこくへ到きたり須達すだを許ゆるす往
 く文書を呈ていしを長者是こゝろを披ひらき彼波羅門はらもんに書かけて月蓋つきがが女
 女によを擇得えらむ一五いちご下げを書かき大おほ悦よろこび即すなはち同どう小旅こりよ装まりて王舎城わうしやじやうへ
 月蓋つきが長者ちやうしやうが許ゆるす到きたり初はつく面會めんゑす。互たがひ小素情こそじやうを述の終はりて酒宴しゆゑんを催もす月
 蓋つきが愛あい女によを以もつ倍ばい酌しやくめ侍まじり須達すだ此こゝろ女によを以もつ波羅門はらもんに書かす小死こしす
 一いち八はち猶なほ十倍勝じゆじゆ美み女によを以もつ歡喜くわんぎ小勝こしやうを依より親おんを結むすび婚こん儀ぎを約やくす
 醉すゐを盡つくす其夜そのよ月蓋つきが客殿きやくでんへ止宿とどまりて。後のちより手夜てよの頃ころ不ふ圖目とどめと覺おぼす
 一いち二に家け裡り乃なり男女なんにや飲食おんじの器きを以もつ執とりて大おほ家け食じ應えいの准備じゆんびんを以もす

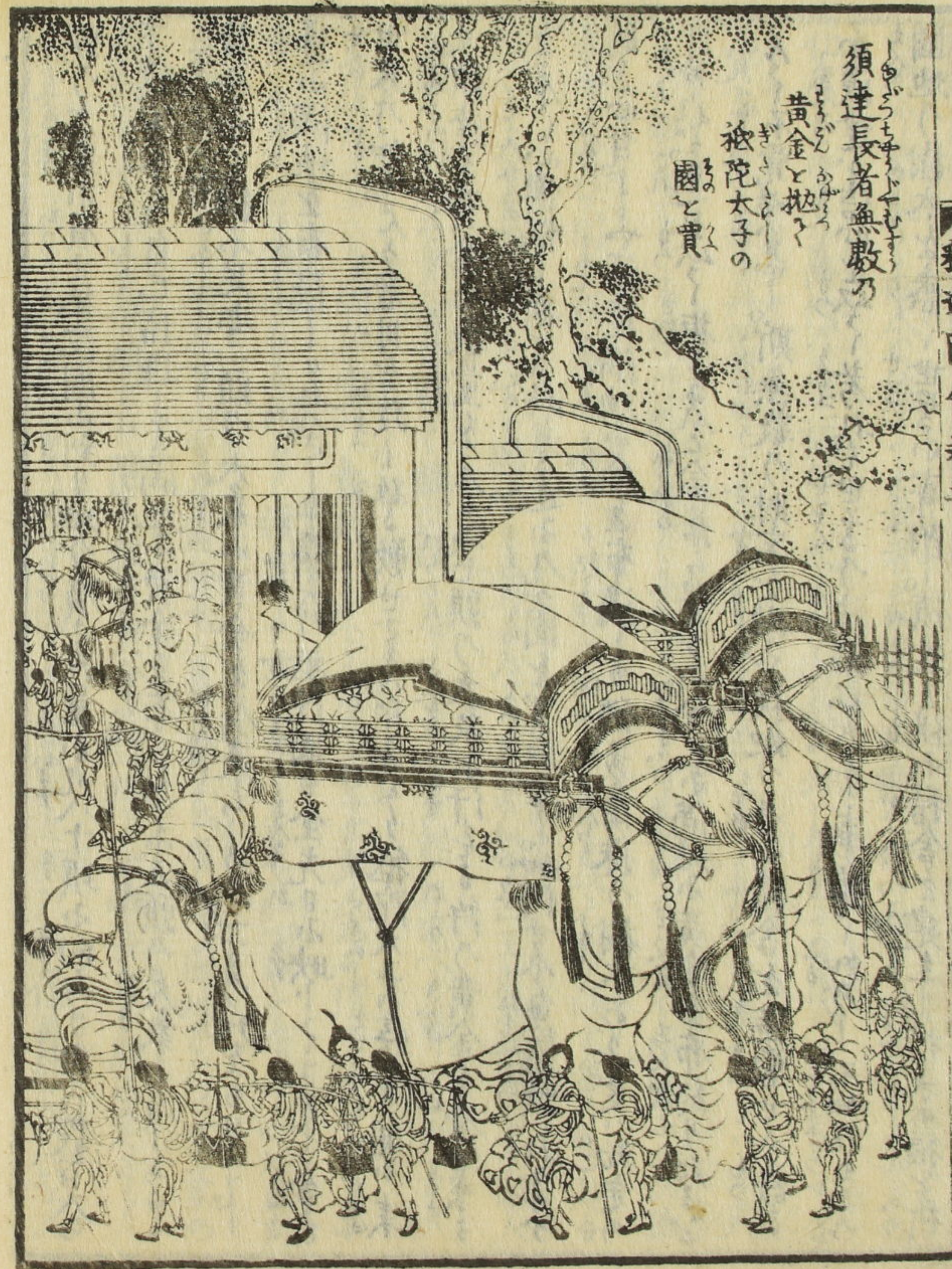
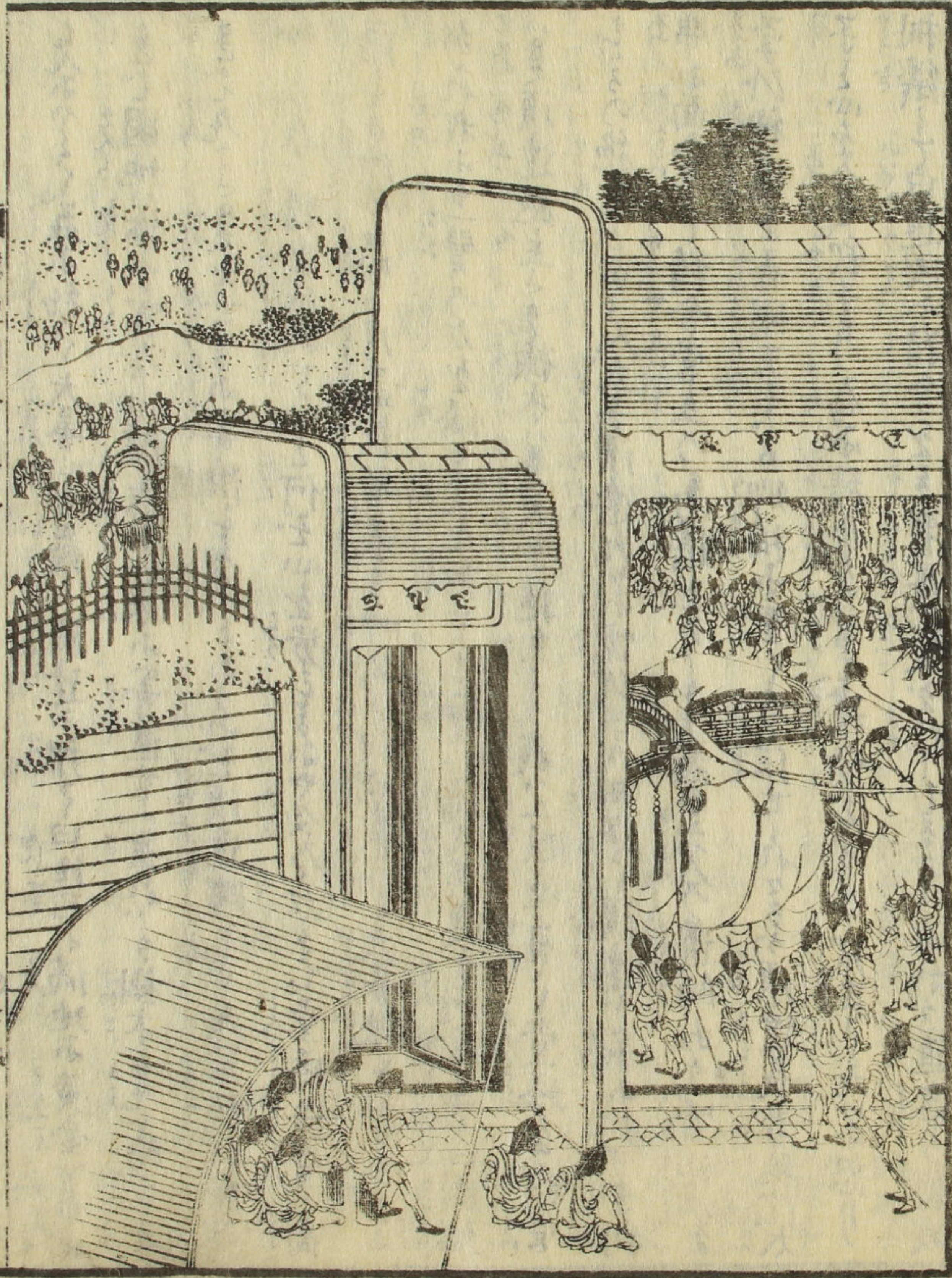
体たいを以もつ心こゝろ訝いぶり想道きやうだう月蓋つきが我が為ため小饗せう應えい乃なり鏡かがみを以もつとも數かず人ひと乃なり器き少すく更さら足
 ぶれ小數すく千せん乃なり食じ器きを取とりて何なに乃なり科か小こと不ふ審しんす小暗くらと望のぞむ日月蓋にちげつが小
 對たいり其故そのこゝろを問と月蓋つきが各おのづか々づか曰いは明あ日にち如ごと来きた及および阿羅漢あらかんを清きよく供くわん養やうせん欲ほつ
 ともが故ゆゑ前後ぜんごより其鏡そのかがみを以もつ定さだりて長者ちやうしやう乃なり眠ねを妨さまたせりて謝しやと須達すだが
 曰いは如ごと来きたと何なに人ひとを以もつ下げ月蓋つきが曰いは君きみのまま知しる事ことや。摩ま伽か陀た國こく淨じやう飯はん玉ぎよ乃なり皇すう子し悉しつ
 達たつ太子たいし降くだ誕たん乃なり自みづか天地てんちの間まに三さん千せん二に乃なり瑞相すゐしやうを現あらす。萬ま神しん蓋が毘び尼に園えんを傍たが護ご
 太子たいし生なかからかく歩あむむて七しち步ふ右みぎ手てを天てん小指さし左ひだり手て小地ちを指さ天てん上じやう天下てんか唯ただ我われ獨ひとり
 尊そん唱な唱な三さん十じゆ相しやう半はん種しゆ好こうを具ぐ足そく成長ちやうじやう小隨しゆいひ字じを以もつ萬ま藝ぎ小建こけん十九じゆ乃なり
 宮中きやうちゆうを去い擅ぜん特とく雪せつ山さん乃なり靈れい場じやう小雞けい行ぎやうも更さら十二年じふにねん終はり一切いっけつ智ちを得える無な上じやう正
 覺かく乃なり如ごと来きた現あらす。十八じふはち億いふ萬まん乃なり魔ま種しゆを降くだり三さん加か葉えつ月げつ連れん舍しや利り非ひ以下いげ神通しんたう
 廣くわう大たい乃なり婆は婆は羅ら門もん道だう師し皆みな徒た弟ていとあり諸國しよこくを回めぐりて一切いっけつ衆しゆ生じやうを濟き度たり今
 已いま小三さん千せん五ご百ひやく乃なり比ひ丘きう二に千せん八はち百ひやく乃なり比ひ丘きう丘きう優う婆は女によ塞さい優う婆は女によ夷い八はち數すうを以もつ今いま這こ國こく

善勝道場在法を統むる依り我明日如來師徒を結ぶ供養を欲
せりと一五十を結りしに須建長者額を撫ぐ大い歡喜我如何なる福縁
有て愚男が為に絶世の美人を得且多年渴望せし大聖釋尊を拜する
を得るの悦び小勝を猶月日無事會止宿事如來乃光臨を相待り
茲小叙尊八月蓋請待小應下十大徒弟十六羅漢其餘百千の弟子を後
へ長者が館會小來臨し玉の至弟乃為小妓紅を統む其後供養と受
用し多須建始如來乃說法を聽受し隨喜の泪を流して信心肝小銘下
佛足を拜して告ぐる初く本覺如來乃法顔を拜し妓紅を承り胸乃雲
霧晴まり煩惱乃夢中覺ゆぬ但し慈悲萬行乃如來並く天下と周徑
く有縁無縁を化度しむいかう我舎傍國を玉駕をむけむばさる如何
佛意小やと回する世に曰你が不審さる更なり抑舎傍國八國王と
下民と邪道を信下る三室を嘲り繞る故小予いふ你が國小到む須建

我垂く曰願く大慈大悲の如來一度佛足を舎傍國小舎の邪を滅す法と勸
く國人を化度しむる一國の福ゆい久と誠心面小見れ願を世に點首
ひ你が大善心八予是を知り然も出家乃法在俗と異く說法とを精
舎ふ久に到ると曰小須建大い悦び思老が家小貯る財宝を賜る精舎
を言とまひを君精舎成就せむ如來法駕を促し如來と向なる世に結
しむひ你說法をせむ精舎を造りけし速小到る國人を化度と下須建曰
そ中如來の任しむる堂塔如何なる地位小建ゆたや思意小并ふ
願く之法弟の中地形を擇む精舎乃廣狹を指揮しむる河羅漢一人を
借むと願ふ如來実もと思ふ維を遣はし思惟去ふ舎傍國ハ多婆
羅門種乃邪道を信むとせむ原婆羅門中神通廣大なる者を遣はし
國王を屈伏せむると能くす十大弟子の中舍利弗を召出しむ須建と
俱小舎傍國小赴た精舎を立る地位を擇む堂塔乃數量を指揮と

の地ふく敢て他人の譲りて長者曰道遙娛樂二世の樂之積舎を至如木の
 化度を受る八萬代乃幸福なり太子乃御游の地八彼園ふも限らず。枉く小余
 賣与ふへと再三再四懇望し止されど太子とてあまし心中お思惟しるる八景斯
 まく懇心望まじも價按群小貴く賣人とのも望を断せしむ。須達お向ひ你
 さむふ九圓を購得んと欲せむ彼園の地を黄金を以て布満す分り余地中
 残さむん其黄金を以て園地を賣与ふ。長者歎曰王者小戲言なり。小人
 之回り園地小黄金を布て購ひ取むを。坐を起私宅へを回りる。太子大
 け強た九系系リ園を賣り意なりと之も。景が望を断人爲ふ價を貴く云るお
 豈もろ人傑猶屈むる色なり領掌して面るなり。八是ハ如何小ををを心地感ひ
 必ひるる流石小約定せ一言を違棄せん妻も能く。廣大の園地なれを富其家の
 須達なりとも。彼地を布隠を程り黄金八貯得と唯長者が財乃足さるん
 妻をを納られも。須達長者館舎小回りて會票を用た。數億萬の黄金と五

頭乃大象小負せ抵陀園小到り地乃廣き我量小凡八十頃小向たり即ち數百人の
 下僕を分ち自己指揮して滿地小黄金を布。むる五頭乃大象小負しあまの
 黄金小猶不足亦二頭乃大象小黄金を肩来らる。一す乃地をも見。す
 遂小滿地を布隠しれば。廣大の抵陀園も金光日小映下る。さるる金色
 世界乃如く。見る者目を眩し致す。數せさるる八なり。抵陀太子ハ疾しり園未
 り。須達が黄金乃數量を。七頭乃大象小汗も。許り黄金を肩せ来る
 を見く心懊惱し。斯てハ此者遂小九圓を買取なり。如何せんと思ひ煩れ。多か
 恥と心付。や須達滿地小金を布満も。猶幾萬株の樹木あり。是ハ約定の
 外たれ。是を以て拒むると念居られも。今已小滿地小黄金を布終りたると
 んく不覺嘆息し。斯無數乃財宝を抛り。釈迦乃爲小精舎を造営せん。欲ま
 小須達が信心を以て考れ。世を乃法徳弘大なる事推し。知なり。不如九も。この
 園地乃樹木を悉く。世を小寄附し。須達と俱小精舎を建立し。將來の福と祈



須達長者魚敷乃
 黄金と拋う
 祇陀太子の
 園と貫

らんふくく。茲小初く大善心を幾し。須達小習く曰汝已小滿地小黄金と布し
 まむ園地小休小賣るに隨意小如菓小寄進せよ。汝れも樹木を凡小所有な
 まむん九し。是を世小寄附とありとあるふと須達躍上く大小悦び斯く
 如くなれ小精舎成就せん。何ぞ心を勞と多小や及んた。堂塔造営の高
 議も所小勿心ち月蓋長者来り呼ら。曰公等の小大善根をなむこと
 小我小一臂の力を添るを許せよと望む兩人其由を向月蓋が曰園地
 小是須達絶主と。樹木小是太子絶主と。我ハ工匠を雇く堂塔を造営
 するの絶主とあり人太子須達大小悦び三人相侶く須達が家小到り舍利
 弗小面會して精舎營立乃高議をなす。茲小六人の道師あり皆仙法を
 學小神通を弄國王も卿相小重く信せし。須達長者祇陀太
 子と心を合せ釈する乃為小精舎を營建んとする。代はく大小怒り
 相議して曰這國小精舎を互瞿曇比丘を任しむるならむ我が道忽ち衰滅

とる。不如大王小松く精舎造を停止せし。如斯衆議一致して六師希く
 波斯匿王小見く奏く。多小祇陀太子須達が女言小惑され小瞿曇沙弥を
 信し精舎を造す。渠を招く。是は是大の貴なる大國の貴なる。表乱のまふ
 願くハ大王太子小初く精舎建を停止し須達を捉へ重く刑く。必
 と口戒とら告れを國王。曰朕更淨飯王の子釈迦が法義入天を化度し
 功德廣大なり。百國心を傾け天下皆渴望し。是は依り朕も一面款迦と
 精く其説法を聽んと思ひ。法身も無益の道なり。聽ふ及ん。太子が造
 営小中停止を乞ふ。唯憾らく朕卿們が修むる道と釈伽が修むる道と何ま
 勝り何まうあるを更を乞ふ。心益小疑惑せり。是を奈何が廿六師の首領
 勞度差と。若者席を進ん。曰は何より最安れ更や。今須達が舎より止
 宿も多舍利弗との比丘佛徒數千の中より抽くれ。這國小来る。釈迦小
 手段ある者なる。我を我渠と法術を揃ひ。若舍利弗勝し精舎

造立を免許す。將我門勝を造立をさし止舍利弗を追回す。一と奏すと國王は之を
許す。此義あるべしと曰意あり。即ち官人を召し須達長者を王宮へ召し六師の願の
旨を云せし法術を捕らるるより命しふと須達長者大いぞ致れ。這更智有
んと思ひをさす。王命返ると能く領掌し快くして退去る。

捕神通舍利弗降六師

斯く須達長者八思ひし。ね王命を得ず心樂し。一と懊悩を抱たり。私宅小飯
り来る。舍利弗長者不快の体を乞く其故を問。須達が曰小人今日王宮へ召
内いとう國王の信り六道師と召者。と法術を捕る者勝か。精舎
造営を終む。若六師勝を精舎建を停止とす。の王命なり。彼六師を
皆猛悪く。且神変不測の術あり。召者八是正法慈眼の佛弟。一渠門が邪
術小肩む。太子及び小人々大願一朝の霜と消人吏の憂。一と心樂し。よとと
結る。舍利弗笑。曰絨小長者。正直老實の人心を安んず。捕術の領掌

を告む。彼六道師をたつ者。抵陀園の草木の敷。と来り。も我が此院小生。一
根の毛。亦動し得し。とも緒。小云。故つ長者。猶心穩。たされ。と意中小。想道
此人平素。小是。順。小く。後。小。大言。せ。ま。小。今。這。大言。を。放。つ。と。必。を。彼。六師。小。勝。る
手段。ある。な。り。め。と。再。び。王宮。参。り。舍利。弗。が。術。捕。領。掌。の。旨。を。奏。す。と。彼
斯。王。を。其。准。備。せ。し。と。官。小。命。し。城。外。の。廣。た。地。を。擇。ま。せ。四。方。小。塔。を
結。高。座。を。設。け。し。諸。國。中。の。人。民。へ。今。日。り。て。七。日。の。後。這。地。位。不。終。し。婆。羅。門。六
師。と。世。の。乃。徒。弟。舍利。弗。と。法。術。を。捕。る。あり。隨。意。小。看。と。と。一。觸。れ。る。を
國人。們。這。更。を。受。す。是。六。劫。した。看。事。を。奉。り。其。日。夜。を。相。待。す。斯。く。程。を
定。日。の。か。り。を。波。斯。匿。王。を。召。す。抵。陀。太。子。卿。相。宮。妃。般。々。乃。下。官。を
捕。術。場。小。至。し。の。殺。り。座。位。小。着。塔。の。四。面。小。を。國中。の。貴。賤。老。若。夫。十。万。乃
數。を。志。す。と。雲。霞。霞。つ。と。群。集。して。錐。乃。地。を。殘。さ。し。勝。劣。の。ふ。と。相。待
する。阿。小。守。門。監。平。金。乃。報。を。擊。を。東。乃。門。を。開。た。く。六。人。乃。婆。羅。門。數。十。人。徒

弟を牽く。場へ入る。坐し着其時。銀鼓を撃ち。西の門を向く。舍利弗。頂
 達長者を従へ。徐々と歩み入。殺り席し着。音事。諸人東西。勢を
 見ふ。六師。悉く羅縷錦繡。衣を穿ち。意気揚々。舍利弗。麻の法衣
 布の袈裟を身。纏ひ勢。微々。衆人嘆息。可憐。這比丘僧。争
 ひを好む。六道師。為。如何。幸若を受らん。てひを。あ。裡。號。令。鐘を
 鳴。六師の中。も持。神。通。廣大。中。一。旁。度。差。坐。位。を。起。寬。大。歩
 出。瞿曇。分。徒。弟。来。多。呼。其。時。舍利弗。對。問。を。待。不。旁。度。差。曰。や。れ。舎
 利弗。你。師。又。瞿曇。汝。彌。八。妖。怪。の。變。生。多。胎。内。小。居。三。年。母。親。乃。右。脇。蹴
 破。く。出生。早。不。孝。の。罪。を。犯。刺。高。恩。の。又。を。捨。て。邪。道。を。學。び。天下。の。人民。を
 惑。し。君。又。を。捨。妻。子。を。捨。嗣。を。断。族。を。絶。も。道。小。入。む。是。不。忠。不。孝。の。教。多
 抑。我。が。這。舍。佛。國。と。君。臣。賢。明。も。親。迦。が。邪。說。を。用。ひ。我。が。真正。の。道。を。信。し
 君。臣。又。子。の。倫。を。乱。さ。と。出。る。小。唯。須。達。と。至。愚。乃。國。賊。あ。つ。親。迦。が。妾。婦。小

満。れ。太子。小。勸。這。國。子。道。場。を。開。人。と。欲。と。是。迷。ひ。の。甚。つ。た。を。大。王。小
 奏。今日。這。場。お。於。つ。你。と。我。術。を。捕。明。小。國。人。小。道家。と。佛。家。と。何。ま
 う。真。か。る。吏。を。知。ま。と。欲。せ。り。你。が。術。勝。を。積。舎。を。立。る。吏。を。許。を。な。さ。言
 我。小。及。ま。と。入。頂。達。八。九。族。を。滅。し。你。骨。を。粉。小。肉。を。泥。と。な。人。但。術。を
 捕。さ。る。以前。小。非。を。悔。罪。を。謝。し。な。幸。小。命。を。恕。し。放。ち。飯。り。人。三。思。と
 加。く。答。を。お。せ。と。罵。り。多。り。舎。利。弗。天。を。仰。大。小。笑。ひ。これ。伽。陵。頻。迦。乃
 今。ま。を。さ。す。燕。雀。の。轉。り。我。が。音。猶。頻。迦。の。微。放。あり。と。想。ふ。と。你。們。が
 凡。眼。を。以。つ。つ。何。を。我。佛。如。來。の。妙。法。を。不。忠。不。孝。の。道。も。或。ハ。邪。道。も
 お。い。ま。是。麒麟。の。生。虫。を。喰。は。さ。る。狐。豺。狼。の。笑。が。如。し。所。詮。你。が。們。と。口
 舌。の。論。無。益。なり。你。術。あ。ら。な。施。せ。よ。我。盡。く。是。を。破。る。乃。と。事。や。け。お
 答。を。これ。乃。度。差。大。小。怒。り。惡。死。比。丘。が。廣。言。う。め。我。が。本。事。を。足。を。下。と
 眼。を。開。く。女。阿。含。ま。れ。場。乃。中。正。小。一。抹。乃。小。木。生。出。く。雲。霞。段。乃。緒。人。目

と瞬きし。此居る小衝を小長大と作り枝繁り葉を増えん中天下生上り
日影を覆後許の紫葉茂し。花咲草を結ぶと衆人あつと感れ美も希代乃神通
とて讃歎する声女時ハ鳴も止まり。舍利弗是をえん。右手を揚ぐ天を
指させ俄然とく旋風吹幾り。方度差う大木を根ながく吹抜地小倒る
微塵とかり。衆人是をえん。再び感歎。這般乃術揃舍利弗者勝り
賞登し。方度差気を奇再び呪文を唱えん。然とく。場中池水現し
周り乃岩石盡く七宝を積重澳小種々乃妓花咲出たり。舍利弗亦指を以
く虚空小描む六牙乃白象出現を一身長大小く牙乃上毎小七莖乃蓮花
生下。其基毎小七人乃玉女坐せり。件乃白象池辺小歩またり。湧溢る池水と
一滴も残さずと吸盡せん。玉女袖を以て花木を拂小池も花石も霜初のしく小
消白象八雲を踐ぐ。天小昇り。方度差二度の不覺をとり忙然とく再び
神通を弄。斐能はと是小依る。諸人等。舍利弗位度も勝り。と登問小六

師一人拔迦耶とりの者方度差小換り場小進。出言乃向答もなり。捨捨念咒
結を唱を忽ち一坐乃大山湧出。泉滝樹木草花盡く具足。山上小一字乃
堂塔あり。皆七宝を以て莊嚴せり。諸人是をえん。嘆美する所小舍利弗も
天小描む數丈乃金剛力士天より降り。金剛杵を揚ぐ山を一撃。とれ。その
大山碎け散て雪の如く消失たり。拔迦耶怒り亦咒結を唱む。一個乃龍池中
より出現を一身小く十頭あり。鱗角を鳴。爪牙を顯し。虚空小飛騰。大
雨を降し。黒雲を發雷電天地を震動させを衆人恐怖して戦慄せざる小
舍利弗女も強がど一念とを唯視。一羽乃金翅鳥飛来。龍を搔抜引裂
喰是小依る。雨霽。雷収り。白日皎々。衆人心を安し。舍利弗勝を賞し。ね
其時亦六師の中より迦里闍とりの者拔迦耶小換り。進出捨捨念咒結を
唱れ。俄然とく一大牛出現。身軀肥壯。小。鹿足利角あり。大乃吼り。地
を奔り疾風の如く。舍利弗小向角を揮。衝来る。舍利弗又一念とを



舍利弗大神通
現く六師等と
闘入図

佛經卷之五

社



佛經卷之五

社

巨大の師子現る大牛を齒牙のけりて分裂して喫盡く是れ依り迦厘爾
由勝斐能を引退く。又六師の中より耶羅伐といふ者進み出身を動く夜又
神となる身材十五丈頭上小火燃眼中赤く血の如く四牙長く利き眼光
日月小舟緒人星をくく怕まざるなり。舍利弗も同じ身を喪く毗波門天
と化。身材二十丈三叉乃戦を廻し。夜又神と闘て數十合夜又神力疲れて
逃入るとる猛火燃出く東西南北路あらむ耶羅伐大の怕ま本相を頭
者怒くまとい叫む須臾の猛火消舍利弗假相を收く本坐ふく六師の
中運屠斯窟鳩墮の二人を勝がたれを知く出合を茲に於て舍利弗身と躍
く虚空小昇るとんえたるが端然く空中小立身上水を出し身下大を出
く東小没く西小現ま北小隠ま南小現く或ハ身を百丈ふして跋扈或ハ身と
寸小く宛轉或ハ身を合とく千萬と身と合く一身となる其變化究
りたれを國王太子卿相も無数の看者感嘆小勝を譽る声百里の外小

徹する終なり。我慢乃六道師也。舍利弗の神愛奇特を以て屈伏し各
前罪を謝す。おれ者如来小願ひ我を佛弟とす。お望みれ徒隨
けり徒弟们也俱小得道。入更を願う。舍利弗善哉々々。是を終結し
場中小高座を設く。自己是上り衆人乃為本行宿福の因縁端的なる更
を示し。比喩を設く。佛道の甚深微妙を説く。これ聴衆無明の睡を覺
く。感涙小袖を絞り。斯く説法畢。これ億兆の聴衆歡喜踊躍して已か
隨意去。國王太子臣下と俱小舍利弗を請く。城中還り。種々小供養
し。金銀絹帛を布絶し。舍利弗思を謝して王宮を退た。須達が舎小回
り。後太子も須達月蓋と高儀し。二匹數千人を以て祇花園を剪ひ。此
伽藍造営を始む。

酒經

李時珍